

## **小口登良 教授 履歷・業績**



## 小口登良 教授 履歴・業績

### 履歴

昭和18年3月9日生まれ

#### [学歴]

- 昭和36年3月 長野県立諏訪清陵高等学校卒業  
昭和37年4月 国際基督教大学教養学部入学  
昭和41年3月 同校卒業（教養学士）  
昭和41年4月 同校行政学大学院修士課程入学  
昭和43年3月 同課程修了（行政学修士）  
昭和43年7月 ニューヨーク州立大学バッファロー校大学院博士課程経済学研究科入学  
昭和46年6月 同校同課程満期退学（昭和53年同校同課程博士号取得 Ph.D.）

#### [職歴]

- 昭和46年7月 ウィンザー大学経済学部助教授（昭和53年7月同校準教授）  
昭和53年4月 国際基督教大学教養学部招聘准教授  
昭和54年7月 ウィンザー大学退職  
昭和54年8月 筑波大学社会工学系助教授  
平成元年4月 京都大学経済研究所客員助教授（兼任）  
平成2年3月 同研究所退職  
平成5年3月 筑波大学社会工学系助教授退職  
平成5年4月 専修大学商学部教授  
平成17年4月 商学研究科長  
平成20年3月 商学研究科長 満期退任

## 主要業績

### 〔学術論文〕

日本、韓国、マレーシアの製造業における大企業と中小企業の生産性格差

——「アジア諸国の産業発展と中小企業」モノグラフシリーズ第6巻東アジア諸国の計量分析第2部

2009年3月

「アジア諸国の産業発展と中小企業」モノグラフシリーズ全9巻（編集）

——専修大学中小企業センター 2009年3月

Productivity Differences between SMEs and Large Firms in Manufacturing in Japan, Korea and Malaysia

——専修大学中小企業センター 2008年3月

Productivity of Large Firms And SMEs of Malaysian Manufacturing, Noriyoshi Oguchi (Senshu University),

Anuar Abdul Karim (National Productivity Corporation, Malaysia), Nor Aini Amdzah (National Productivity Corporation, Malaysia) 2006年3月

Productivity Trends in Asia Since 1980—International Productivity Monitor 10—

2005年6月

年金財政モデルによる2004年年金改正の評価

——日本経済研究センター研究報告書『社会保障財政の全体像と改革の方向』の第2章——

2005年3月

Integrated Report: A Coordinated Estimation of Total Factor Productivity Growth of 12 Asian Countries

——Asian Productivity Organization—— 2004年1月

Switching the Japanese Social Security System from Pay-as-you-go to Actuarially Fair: A Simulation Analysis

—in T.Ihor and T.Tachibanki eds.: Social Security Reform in Advanced Quantities Chapter 6, Routledge— 2003年2月

Productivity of Foreign and Domestic Firms in Malaysian Manufacturing

——Asian Economic Journal Vol.16—No. 3 16/3—— 2002年9月

年金財政の予測と改革の方向

——地球産業文化研究所、「少子高齢化社会における日本の選択～教育、福祉と経済の戦略」研究委員会報告書—— 2002年6月

Japanese Investment in Korean Manufacturing: A Case Study

——「Measuring Total Factor Productivity」Part, アジア生産性機構—— 2001年6月

Integrated Summary——「Measuring Total Factor Productivity」Part ,アジア生産性機構—— 2001年6月

Switching the Japanese Social Security System from Pay-as-you-go to Actuarially Fair: A Simulation Anaylsis

——オックスフォード大学高齢化研究所ワーキングペーパー13—— 2001年6月

日本の韓国製造業への直接投資と技術移転—「地域学研究」第30巻, 第3号, 日本地域学会— 2000年12月

The Productivity Effects of the Japanese Direct Investment in Korean Manufacturing Industry

——「専修商学研究」第71号—— 2000年7月

1999年政府年金改革案の評価——日本経済研究センター発行「日本経済研究」No.40——

1999年10月

年金改革と世代間再配分——社会保障研究（社会保障研究所）32/2——

1998年8月

基礎年金の財源と受給及び負担の世代間格差——日本経済研究センター発行 日本経済研究 33——

1998年5月

マレーシア経済の成長要因分析——名古屋市立大学——	1997年3月
The Net Pension Debt of the Japanese Government. (In M.Hurd and N. Tashiro eds., Effects of Aging in United States and Japan, Chapter 14.) —Chicago University Press—	1997年2月
年金は受給に適正に対応した負担で——国民経済研究協会 産業年報 No.20——	1996年3月
Redistribution Effects of the Japanese Public Pension——Review of Social Policy (社会保障研究所) 5——	1996年3月
年金制度のマクロ経済への影響—マクロシミュレーションモデルによる分析—	
—専修大学商学研究所 商学研究年報 20—	1995年3月
年金の世代間格差と純債務——国民経済研究協会 景気観測 No.807——	1993年10月
日本国政府の年金純債務——日本経済研究センター発行 日本経済研究 No.25——	1993年8月
Economic Effects of the Japanese Direct Investment in Thailand.	
—国際地域学会（日本部会）Studies in Regional Science Vol.20, No. 2 —	1990年12月
On Temporal Aggregation of Linear Dynamic Model. —International Economic Review 31/ 1 —	
	1990年2月
賦課方式から積立方式への移行と財政収支——社会保障研究所 社会保障研究所 25巻2号——	
	1989年9月
Emergence and Effects of the Direct Investment of Japan to the Masan Free Export Zone.	
—慶南大学（韓国）地域開発研究創刊号 1—	1989年9月
賦課方式から積立方式への移行——社会保障研究所 社会保障研究所 25巻1号——	1989年6月
Macroeconomic Evaluation of Japanese Economic Cooperation with Asian Countries.	
—East Asian Economic Association Asian Economic Journal 3巻1号—	1989年3月
科学博による経済効果の計量分析——計画行政学会 計画行政14号 14—	1985年8月
Perfect Aggregation Conditions for Quadratic Programming Models.	
—American Agricultural Economic Association American Journal of Agricultural Economics. 61巻3号 61/ 3 —	1979年8月
A Note on the Necessary Conditions for Exact Aggregation of Linear Programming.	
—Mathematical Programming Society Mathematical Programming. 12号—	1977年12月
Distribution, the Aggregate Consumption Function, and the Level of Economic Development.	
—シカゴ大学 Journal of Political Economy 84巻6号—	1976年12月
The Trend of the Dual Structure and Backwash Effect in Japan.	
—理論・計量経済学会 季刊 理論経済学 23巻2号—	1972年8月
二重構造の計量経済学的模型——理論・計量経済学 季刊 理論経済学 20巻1号—	1969年4月

## 〔発 表〕

中小企業と大企業の生産性比較

——専修大学中小企業センター「データでみるアジアの中小企業」 2007年7月

## 〔著 作〕

年金改革論：積立方式に移行せよ——日本経済新聞社——

1999年4月

- 基礎年金の財源と受給及び負担の世代間格差、八田達夫、八代尚宏編著、「社会保険改革」(日本経済新聞社), 第3章——日本経済新聞社—— 1998年5月
- 宮沢健一、連合総合生活開発研究所編「福祉経済社会への選択」, 第8章「高齢・少子化のなかの社会的負担のシナリオー福祉関連財政予測ー」——第一書林—— 1995年11月
- 日本の公的年金の再分配効果 (石川経夫編「日本の所得と富の分配」, 第10章) ——東京大学出版会—— 1994年9月
- The Growth of the Korean Economy and the Foreign Capital. (Economic Models of Asia-Pacific Economies 15章) ——Springer-Verlag—— 1993年12月
- 原子力発電所新規立地に伴う地域経済への影響予測——電力中央研究所 報告Y92502—— 1993年4月
- 社会保障研究所編 リーディングス日本の社会保障第3巻 年金の第7章「年金改革—市場収益率方式への移行」——有斐閣—— 1992年7月
- Switching the Japanese Social Security System from Pay-as-you-go Actuarially Fair:Topics in the Economics of Aging, 第7章——Chicago University Press—— 1992年5月
- 日本の政治経済システムの第4章「年金改革—市場収益率年金への移行ー」  
——日本経済新聞社 現代経済研究グループ編—— 1990年11月
- Perspective on the Pacific Basin Economy : A Comparison of Asia and Latin America 第2章“Projection of Pan-Pacific Region to Year 1995”. ——アジア経済研究所—— 1990年4月

#### [その他]

- 少子高齢化と年金財政——企業福祉情報2002年第6号, 日本生命保険相互会社 2002/6—— 2002年12月
- 「積立方式」で信頼できる制度へ——ウェルフェア No.33 (全労災協会) 33—— 1998年10月
- 発電所立地に伴う社会経済影響に関する分析—敦賀市のケース—  
——電力中央研究所 経済研究所内部資料 No.268—— 1986年3月
- マクロ援助効果評価についての調査—韓国, バングラディッシュ, タイ——国際開発センター—— 1985年3月
- ケインズ理論と古典派経済学——経済セミナー—— 1978年5月

(注) 膨大な小口登良先生の業績から各年度ごとに数点リストアップした。【文責: 大林守】